

平成 25 年度第 3 回社会教育委員会議 会議録

【開催日時】 平成 26 年 2 月 17 日（月） 午前 10 時から 11 時 30 分まで

【開催場所】 議会棟 A、B 会議室

【出席者】

（委員）

飯牟礼委員、岡本委員、近藤委員、佐野委員、柴田委員、田中委員、中尾委員、中島委員、星野委員、森委員、山口委員、弓場委員、渡辺委員（13 人） 3 人欠席

（職員）

倉部教育長、高橋生涯学習部長、増田生涯学習部次長（兼生涯学習課長）、西沢文化・スポーツ課長、増田図書館長、木村鳥の博物館長、今井生涯学習課主幹（兼公民館長）、鈴木文化・スポーツ課主幹、小林文化・スポーツ課長補佐、小川主査長

【傍聴人】 2 人

【会議次第】

- 1 開会のことば
- 2 委員長挨拶（渡辺委員長）
- 3 教育長挨拶（倉部教育長）
- 4 生涯学習部長挨拶（高橋生涯学習部長）
- 5 議事（議長：渡辺委員長）
 - (1) 平成 25 年度社会教育事業の実施状況について（10～3 月）
 - (2) 平成 26 年度社会教育事業予算について
 - (3) 「我孫子市社会教育推進計画」の総括に係る検証部会の設置について
 - (4) 社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 18 条の改正に伴う我孫子市社会教育委員条例（昭和 33 年 3 月 24 日条例第 5 号）第 3 条の改正について
- 6 傍聴人意見陳述
- 7 閉会のことば

【配布資料】

- 資料 1 平成 25 年度社会教育事業の実施状況について（10～3 月）
- 資料 2 平成 25 年度主な社会教育施設利用状況
- 資料 3 平成 26 年度生涯学習部事業一覧表
- 資料 4 「我孫子市社会教育推進計画」の総括に係る検証部会 部会委員候補者名簿
- 資料 5 我孫子市社会教育委員条例の一部を改正する条例

【議 事】

(1)平成 25 年度社会教育事業の実施状況について（10～3 月）

資料 1「平成 25 年度社会教育事業の実施状況について（10～3 月）」及び資料 2「平成 25 年度主な社会教育施設利用状況」について各所管から補足説明。

- 生涯学習課長：企画調整担当分について今年度予定していた事業は、全て執行予定である。また、成人式の報告については、「平成 26 年成人式実施報告書」を別途添付した。

- 公民館長：各学級は、10 月から 3 月まで滞りなく進んでいる。施策「1. 公民館講座・学級」実施事業「①長寿大学」事業内容「合同学習」として大雪の 2 月 9 日、長寿大学祭を予定していたが、交通機関の降雪による影響のため、急遽安全を期して中止とした。中止は、過去 1 度あり、これで 2 度目であるが、関係者の理解を得た上での中止となった。各学級それぞれ終了したところではあるが、目的である学習活動のきっかけを作り、学級終了後も継続学級を立ち上げてグループを作り、公民館を利用して活動するよう促しているところである。

来年度の学級については、主なものについて内容を検討している。同施策実施事業「⑥アビコでなんでも学び隊」事業内容「⑦レゴロボットを動かそう！」は雪の 2 月 8 日に実施したが、交通機関が遅延する中、民間会社のボランティア 12 人に出席してもらい、子ども 19 人が出席して非常に好評だった。

- 文化・スポーツ課長：施策「文化財保存・活用の推進」実施事業「文化財の保護」の発掘作業は、1 月までに実施したものについて記載している。他の実施事業については、参加者数を記載しており、記載のない事業は、まだ実施していないか、参加者数を集計していないものである。

第 2 回社会教育委員会議会議録 8 頁 5～6 行に新春マラソンの参加者数 800 人とあるが、1,821 人の参加者があったので訂正していただきたい。

- 佐野委員：新春マラソンで実行委員長をやっている。大変なのは警察とのやりとり、コース決め、走行者の安全確保、諸手をあげて賛成している訳ではない地域住民とのやりとり等である。エコマラソンは、決められた時間内に通過できない場合にはレースを続けられないという規制があるが、新春マラソンは規制がない。最後のランナーが通過するまでは、係員も残らなければならない。今年度は時間がかかり過ぎたが、来年度はスムーズに進行させたい。

- 文化・スポーツ課長：新春マラソンは 80 分で走れることを前提としているが、今回 93 分かかった人がいて警察からお叱りを受けた。今回の事を教訓とし、来年度は規制を含めて警察と調整したい。

- 弓場委員：施策「5. 社会教育施設の整備」実施事業「新たな文化施設の検討」については、委員会や専門家会議で検討されているのは分かるが、具体的な内容について報告していただきたい。

- 生涯学習課長：企画課と共同事務局として検討し、会議を開催している。我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議を設置して調査しており、どういう施設を建てたら良いか、候補地はどこが適当であるか、今年度中に報告書を出すこととなっている。新たな施設

として市民会館を主に考えている。

○弓場委員：昨年も同じ報告だったように思う。どういう点について進展があったのか。

●生涯学習課長：職員による我孫子市文化施設整備庁内検討委員会だけでなく、建築の専門家、運営のノウハウを持っている専門家、他市での文化施設の建築に携わった人等を委員として新たに我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議を設置した。我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議では、「賑わいの創出」等の方針に沿って複数の候補地から最適な場所を検討していただく。その検討材料として、商店、人の集まり、交通の利便性、文化施設の規模等の報告書を我孫子市文化施設整備庁内検討委員会から我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議へ提出して意見を聞くという形で進めている。

○渡辺委員長：社会教育委員会議にも、我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議にどういふ分野の専門家が参加しているのか報告していただきたい。

●生涯学習課長：そういう資料を揃えて皆さんにお送りしたい。

○弓場委員：資料3「平成26年度生涯学習部事業一覧表」に新たな文化施設の検討に関する事業名が記載されていない。外部委託に係る費用が発生すると思われるが、どのように確保しているのか。

●生涯学習課長：生涯学習課の予算ではない。企画課と共同事務局となっているが、主導は企画課である。生涯学習課長が委員として参加している。

○渡辺委員長：2月6日に我孫子市で千葉県社会教育委員連絡協議会研修会が行われ、白樺文学館等の施設を見学させていただいた。参加した人に感想を聞くと、我孫子市は歩ける範囲に文化施設が沢山あって非常に良いと喜ばれていた。

先程、長寿大学に継続学級があると伺ったが、いくつ、どういう関係の学級が続いているのか教えていただきたい。

●公民館長：長寿大学は4年で卒業となる。卒業後、継続学級を立ち上げて続けていくかどうかは、学級生同士が、自分達で講師を選んだり、自分達で様々な活動をするものである。その中には、ボランティアがあったりもする。長寿大学には同窓会もあり、年1回報告会があったりして成り立っている。長寿大学も40年経つので、同窓会には150人前後の参加がある。卒業した世代を超えた活動は、通常の部活（ダンス、コーラス、お花等）があるが、学級ごとの活動は、それぞれの学級生同士でこういうことをやろう、こういうところへ行ってみよう、というのが主な活動内容になっていると聞いている。

○渡辺委員長：細かくは分からないということか。社会教育委員会議においても長寿大学卒業後にボランティア活動等に協力してもらえないかといった話が出ているが、もっと表に出たいと思っている趣味やボランティアの活動がどれくらいあるのか分かれば願いし易いのではないか。

●公民館長：4年間のカリキュラム通してボランティアとはどんなものか、ボランティアを実際に行う、ボランティア活動のグループの立ち上げ方等について、段階を踏んでそれぞれ学習の中に組み入れている。実際に活動をしている人もいるが、現役中に自分はこういうことをしていると話す人はあまりなく、把握することは難しい。学級でボランティア勧誘を行うのも違う気がする。全体としては、活動に入り易いように、どのような

ことをやっているのか、市民活動支援課の職員に依頼して段階的なカリキュラムを作るようにしている。長寿大学の入学資格は65歳以上で、高齢化が進んでいる。平均年齢は80歳近くで、卒業してからの活動となると、ボランティア活動を率先してやっていただくというよりは、生きがいとして健康で活動する目的を持っていただくのが重要なことではないかと個人的に最近思い始めたところである。皆さんのご意見にあるとおり、卒業後、街づくりに貢献していただくのがベストではあるが、健康事業を市のプロジェクトとして行っているところもあるということもご理解いただきたい。

- 図書館長：施策「1. 資料の収集」実施事業「①資料の収集」は、順調に進んでいる。同施策「②我孫子関係資料の収集」については、読書週間の11月9日に、杉村楚人冠記念館開館1周年とタイアップして千葉県文化功労章を受章した中谷順子さんを講師に迎え、「杉村楚人冠をめぐる文人たち」という講演会を開いた。「房総を描いた作家たち」シリーズを購入し、郷土資料の充実を図った。施策「2. 資料・情報の提供」実施事業「①資料の貸出」の冊数は前年度と比べて減少しているが、同施策「②リクエストサービス」及び「③相談業務」は、前年度と比べて増加している。夏の猛暑や10月の台風の影響の割には順調とみている。施策「3. 子どもの読書環境向上への取り組み」については、読み聞かせ等を行って普及活動を進めている。
- 鳥の博物館長：施策「1. 教育普及活動」実施事業「①企画展」においては、企画展「日本の鳥展一鳥の見分け方」を1月25日から開始した。新人学芸員が中心となった企画であり、かなり面白いと好評である。入館者数は前年度比12%近くの減となっており、平成23年度及び平成24年度に年間3万人前後の入館者数があったことを考えると厳しい数字である。それに対してミュージアムショップの売り上げは、ポロシャツの売り上げにより前年度と比べて増加している。同施策「⑤ジャパンバードフェスティバル」では、全体の来場者数が前年度の38,000人から33,000人に減少し、鳥の博物館入館者数も前年度4,000人超が3,416人に減少した。いろいろ努力はしているが、なかなか数字に表れない状況である。雪で中止のものもあるが、全事業執行できるとみている。
- 柴田委員：図書館施策「3. 子どもの読書環境向上への取り組み」実施事業「①学校との連携」において、読み聞かせを行う小学校保護者・ボランティアは、どのように選んでいるか。内容は、読み聞かせだけか、又は、読み聞かせに対する話し合いもしているか。
- 図書館長：学校での読み聞かせは、市民スタッフとして読書普及事業に関わっている有償ボランティアである。図書館の職員と一緒に学校や依頼先へ出向き、絵本の読み聞かせ、素話、手遊びをやっている。読み聞かせや素話についての講釈はしていない。子どもの創造性を育むよう講釈せず、子どものイメージを膨らませるような形で終わらせている。
- 弓場委員：第2回社会教育委員会議資料にあった鳥の博物館展示リニューアル基本計画が、資料3「平成26年度生涯学習部事業一覧表」に載っていないのは何故か。
- 鳥の博物館長：1月に来年度予算が示達され、リニューアル事業の必要性は認められたが、要望していた平成26年度基本計画策定、平成27年度実施設計、平成28年度リニューアル実施という計画は進まないこととなった。

- 渡辺委員長：平成 26 年度の予算計上が認められず、計画は 1 年遅れることとなるのか、又は違う企画として考えているのか。
- 鳥の博物館長：企画課の示達は、事業としての必要性は認めるが予算執行においては、他事業との関係からという形で、平成 27 年度から始められるということであれば良かったが、そういう話はなかったので、私の方から 1 年遅れの平成 29 年度にはできるとは言えない状況である。
- 文化・スポーツ課長：付け足しになるが、鳥の博物館リニューアルは、当方で取りまとめている「手賀沼文化拠点整備計画」の一つの事業となっている。その関連で、根戸の歴史公園があり、計画は採択されたが、手賀沼久寺家線という新しい道路ができて、それから公園坂通りをどのようにするのかという計画がいろいろあるので、その辺の事業を見据えながら「手賀沼文化拠点整備計画」もやっていくという形になっており、鳥の博物館の展示リニューアルもそれに連動する形で市全体の中で調整している最中である。もう少し待っていただきたい。
- 弓場委員：来年度は、鳥の博物館展示リニューアルについて予算は付かないが、基本計画策定へ向けた事業は継続されるということか。
- 鳥の博物館長：私たちや学芸員には展示リニューアルへ向けて強い思いはある。ここで計画が 1 年遅れても全く話し合わないというのではなく、事務レベルでは進めていく。計画の予算を要求したのは、計画を進める上で展示業者やコンサルティング業者等、計画を策定できる業者とタイアップして行う委託料を含めた予算要求である。平成 26 年度予算が付かないということで、事務局で粛々と将来の事業を見据えて基本計画策定事業を進めていく。平成 26 年度基本計画を策定する形での業者への委託は行わないということである。
- 柴田委員：鳥の博物館は交通の便が悪く、来館者を待つだけでは利用者数が増えないのではないか。
- 鳥の博物館長：委員の言うとおりでと思っている。土、日、祝日については阪東バスで我孫子駅、天王台駅、鳥の博物館前停留所を結ぶバスが、1 時間に 1 本で運行している。自動車で来る人も多く、あれだけの駐車場を持っている事は強みになると思っている。我孫子駅から、色々な文化施設を通して鳥の博物館へ、というような来年度の事業計画もあり、来館者増となるよう考えている。
- 中島委員：鳥の博物館の施策「1. 教育普及活動」実施事業「⑥多面的利用事業」として開催されたミュージアムコンサートは、面白い事業だと思う。鳥の好きな人以外でも来館するきっかけが何かあると興味を持てる。音楽だけでなく、美術品や趣味の作品展示等も効果があるのではないか。そういうものを見たいから、聞きたいからということで来館し、鳥にも興味を持ってもらってというのも一つの手法ではないかと思う。今後、そういう事業を拡大していく予定はあるか。
- 鳥の博物館長：委員の今の提言は、耳の痛い話で、実は、平成 25 年度をもって多面的利用事業は幕を降ろそうと考えていた。鳥に関する文学関係の展示とか、子どもの夏休みの作品展を積極的に展示するとか、鳥に全く関係のないコンサート等も行ってきたが、学

芸員も展示リニューアルへ向けてきちんと関わっていこうという中で幕を引こうかと考えた。委員のおっしゃる色々な展示のことも考えていきたい。また、展示リニューアルにおいても展示室以外に壁とかも展示に使えるようにと学芸員とも話し合っている。そうしたのも活かしていきたい。

○岡本委員：今年度のジャパンバードフェスティバルの期間中における鳥の博物館入館者数は、前年と比べてかなり減少している。そのジャパンバードフェスティバル自体、来場者の数が当初に比べ減少していると聞かすが、(JBF)事務局ではどのように評価しているのか。一方、12月の入館者数が前年同期と比べて264人増えているが、その要因(例えば新しい企画、イベント、広報活動など)は何か。

館内の展示について、鳥の剥製が中心のため止むを得ないところもあるが、動き(変化)が無いので関心度が低い。動物園や水族館の動きがある施設は人気があるが、中でもその生態をどのように見せるか工夫をしている施設は評判となり、入館者も増えている。現状の動きのない展示を、映像などでカバーする方法は考えられないか。予算を認めてもらう必要はあるが。

●鳥の博物館長：利用者数であるが、12月の増加要因は特に記憶にない。子ども達の人気を得るよう動きのある展示をとというのは、委員の言うとおりで、自分もここへ来て2年足らずであるが、最初、ここは死んだ鳥の剥製の展示なんだなというのが第一印象であった。展示リニューアルについては、色々考慮している。例えば、鳥の飛ぶ仕組みをデジタル化したり、3階に液晶大型ディスプレイがあったが壊れてしまっている。立体的なスペースを利用し、映像とかを駆使し、動的な興味を引くような展示にしようとして学芸員とも話し合っているところである。

○弓場委員：鳥の博物館に比べて図書館の活動が寂しいのではないかと。資料3「平成26年度生涯学習部事業一覧表」には、事業名として「高齢者へのサービス」が記載されているが、資料1には記載されていない。

●図書館長：大活字本を購入しており、高齢者へも勧めている。図書館へ来られない人に対しては、宅配事業も行っている。また、高齢者施設へ出向いて、お話し会等もしている。図書館の中で高齢者に特化したサービスというのはなかなかないのが実態である。

(2) 平成26年度社会教育事業予算について

資料3 「平成26年度生涯学習部事業一覧表」について各所管から補足説明。

●生涯学習課長：第2回社会教育委員会議資料3「平成26年度社会教育事業の予定及び予算要求の概要」と違うところは、「視聴覚ライブラリー」の予算額が86,000円、「平成27年成人式の開催」の予算額が30,000円増額となり、「子どもの権利条約理解講座」を加えている。

●公民館長：学級及び講座については、ほぼ予定通り予算が提示された。事業名「生涯学習センター総合管理運営」の予算額は51,959,000円に、事業名「湖北地区公民館」の予算額は41,567,000円に確定した。「生涯学習センター総合管理運営」業務が今年度で契約満了となるため、先日、新年度契約のためのプロポーザルを実施して委託業者が確定し

た。また、資料3には記載していないが湖北地区公民館の空調設備更新があり、平成25年度は事務室と1階学習室の全面更新工事を行った。築後21年を経過しており、平成26年度は、全体的な空調設備の更新工事のための設計業務ということで4,565,000円計上しており、平成27、28年度で順次更新していく計画である。また、平成23年度に外壁タイルの調査を実施し、東側駐車場及び北側駐輪場の外壁タイルに剥離を発見、平成25年度で設計及び工事を計画していた。平成25年度当初予算で通らなかったが、同年8月に職員通用口のタイルが剥がれ落ちたこともあり、急遽予算を付けてもらい修理した。他の部分の修理工事に、平成26年度は903,000円の予算を計上している。

- 文化・スポーツ課長：平成26年度予算が確定したので「予算額」欄に記載した。経常費、政策費両方あるものについては、合計の数字を記載し、カッコ内に政策費の金額を記載している。全体的に、経常費は前年並みである。歴史文化財担当の事業名「杉村楚人冠邸の保存と活用」の政策費は、杉村家英文資料翻訳の報償費である。事業名「白樺文学館の運営」は、日本民藝協会の夏季学校を我孫子市で行うこととなり、展示会費用として300,000円を計上している。事業名「井上邸の保存と活用」は、旧井上邸を来年度から数年かけて修繕していくものであり、表門、裏門、外塀の実設計画、プレハブの陶芸小屋及び外付けトイレの撤去費用として政策費5,784,000円計上している。

スポーツ振興担当の事業名「体育施設維持補修事業」は、湖北台及び上沼田野球場ネットフェンスの修繕として9,654,000円を計上している。事業名「市民体育館改修事業」は、市民体育館のキュービクルが傷んで危ない状況のため政策費28,006,000円計上しており、併せて事務室及びトレーニングルームの空調修理も行う。

- 図書館長：平成26年度予算編成方針として物件の購入については、平成25年度よりマイナスにという話があったが事業名「資料の収集」については、平成25年度並みの28,596,000円を確保できた。他4事業についても平成25年度と同規模である。事業名「ハンディキャップサービス」では、対面朗読実施回数を平成25年度と同様130回予定している。事業名「高齢者へのサービス」では、大活字図書を120冊購入予定である。また、資料には記載していないが、布佐分館の電源ケーブル被膜が劣化してきたため、施設修繕として907,000円を計上した。

- 鳥の博物館長：政策費として事業名「LED工事」は、平成24年度から3年目となるが、来年度は、来館者利用スペースだけにするという予算の示達があった。事業名「吸収式冷温水機薬品洗浄及び過流探傷検査」、「冷却塔更新工事」については、築24年経過している電気機器等を含め、故障によって危険に晒されることのないよう冷暖房設備の検査や外部にある冷却塔の更新費用として予算計上した。事業名「三館共通券印刷・PR」は、文化・スポーツ課と鳥の博物館がそれぞれ管理している白樺文学館、杉村楚人冠記念館、鳥の博物館の三館の共通券を創設し、市外の人にも利用しやすいようGW初日の4月26日から施行できるよう計画したものである。それぞれの入館料300円×3館分=900円のところを600円で販売し、市内を巡っていただきながら、それぞれの良さを見学してもらおうというものである。条例改正を伴い、これを機に3館とも子ども達の来館を増やすよう中学生以下を無料にしたいと考えている。事業名「市民スタッフ報償費」に

については、市民スタッフは、土、日曜日を中心に館内案内や「てがたん」という探鳥会等を実施しているが、来年度は市民スタッフの採用を増やししながら、おもてなしの精神で市民に寄り添いながら楽しんでもらいたいと考えている。

- 弓場委員：資料 3 の予算額がきちんと記入されていることは、改善点として評価したい。資料 3 のタイトルは、「平成 26 年度生涯学習部事業一覧表」であるが、平成 24 年度第 3 回社会教育委員会会議では、「平成 25 年度社会教育事業予算概要」であった。平成 23 年度に「一覧表」となっていたところを平成 24 年度に直したが、元に戻っているのは良くないのではないか。「社会教育事業」が「生涯学習部事業」に変わっているが、社会教育委員会会議では、社会教育事業として見ているのであって組織の事業として見ているのではない。
- 生涯学習課長：昨年度の資料を確認したい。
- 山口委員：鳥の博物館の「市民スタッフの報償費」というのを具体的に教えていただきたい。公民館の「保育スタッフ事業」について市民ボランティアと記載されているのは、無償ということか。
- 鳥の博物館長：市民スタッフの報償費は、半日 4 時間 500 円、1 日 8 時間 1,000 円であり、「我孫子市市民スタッフに関する要綱」に基づいている。日曜日午後の場合、一人半日 4 時間 500 円で予算計上している。
- 文化・スポーツ課長：文化・スポーツ課でも市民スタッフを使っている。文化振興担当事業のお手伝いしていただく市民スタッフは、文化・スポーツ課で作った内規に沿って募集、採用している。各課とも事業に合わせて「我孫子市市民スタッフに関する要綱」の範囲内で内規を作り、報償費を予算計上している。
- 渡辺委員長：「市民スタッフ」という名称で有償か無償かは統一されていないということか。
- 文化・スポーツ課長：「市民スタッフ」という名称では、有償ということで市全体で統一されている。
- 渡辺委員長：「生涯学習センター総合管理運営」業務の委託業者が確定したということだが、今までの委託業者から変更となるか。
- 公民館長：変更なく、引続き同じ委託業者となった。
- 飯牟礼委員：事業名「杉村楚人冠邸の保存と活用」、「白樺文学館の運営」、「井上邸の保存と活用」は、同じような予算額を計上しており、この 3 施設を中心として文化拠点を拡げようという考えか。
- 文化・スポーツ課長：その 3 館に併せて旧村川別荘、白樺文学館脇にある志賀直哉が使っていた書斎があるが、基本的に手賀沼文化拠点整備計画のエリアに集中して中心となるであろうが、難しいのは井上邸である。井上邸があるのは東、拠点は西で、真ん中の湖北といかに繋げていくかが今後の課題となる。

(3) 「我孫子市社会教育推進計画」の総括に係る検証部会の設置について

- 生涯学習課長：第 2 回社会教育委員会会議で「我孫子市社会教育推進計画」の計画期間が平成 26 年度で終了するため計画の総括を行う検証部会を立ち上げ、ご協力いただける委員

は事務局にご連絡いただきたいという話をした。その後、ご連絡がなかったので、事務局から個別にお願いして5人の委員の内諾を得た。資料4『我孫子市社会教育推進計画』の総括に係る検証部会部会委員候補者名簿』の候補者について、この会議で承認を得たい。

- 渡辺委員長：それぞれの内諾を得ているので、承認してよろしいか。
- 社会教育委員：(全員一致で承認)
- 渡辺委員長：部会は4月以降に開催することとなり、まだ部会長が決まっていないので1回目は委員長名で招集することとしたい。

(4) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第18条の改正に伴う我孫子市社会教育委員条例(昭和33年3月24日条例第5号)第3条の改正について

- 生涯学習課長：この改正についても前回の会議で報告した。条文が確定したので、今回、改正案として資料を提出した。改正案の内容については、社会教育法で定められていた委員の委嘱基準をそのまま条例に加えた。委員の定数は、「我孫子市審議会等の見直し方針」の中で「原則15人以内」とされており、委員定数を「16人以内」から「15人以内」に改めた。条例の施行期日は4月1日であるが、委員の任期が7月末までであるため、それまでは「16人以内」とすることを附則で定めている。
- 弓場委員：条文に「教育委員会が委嘱する。」とあるのは、従来どおりか。
- 生涯学習課長：従来どおりである。
- 渡辺委員長：社会教育委員は教育委員会が委嘱し、教育長が委嘱状を交付している。国の教育委員会改革においては教育長と教育委員長を一体化する動きがあるが、我孫子市も同じか。
- 生涯学習課長：今のところ、まだそうなってはいない。